



女の子も男の子に負けじと稽古に汗を流します



子どもながらも迫力満点の稽古です



益城柔道クラブの小さな柔道家たち。みんないい笑顔です

小さな柔道家たち

夕方、「益城柔道クラブ」に道衣姿の子どもたちが続々と集まってきます。ここには町内外の小中学生の男女47人が稽古に汗を流しており、中には保育園や幼稚園の年長児もいます。男の子のほとんどが坊主頭でかわいらしく、胸板も厚くて道衣姿がさまになっています。女の子もしなやかでたくましく、どの子も「小さな柔道家」というようなたたずまいです。

自分たちで稽古前のウォーミングアップメニューをこなしながらも、笑ったり追いかけてこしたりと子どもらしい一面も。ところが監督の松野成哉さんが姿を見せると道場の雰囲気が一変。コーチ陣もそろい、本格的な稽古の始まりです。

互いに組み手を選び、技と技のぶつかり稽古は、子どもといえども迫力があります。「気ば抜くとけがするぞっ！」と緊張感ある監督の声が道場に響きます。

同クラブはこれまで、県大会はもちろん、全国大会に出場する選手を多く輩出してきました。「結果も大切ですが、子どもたちに伝えたいのは身体と精神の強さ。そして人を思いやる優しさです」と松野さんが話す

ように、幼い子らの道衣の乱れを先輩が整えてあげるなど、ほほ笑ましい光景が随所に見られます。

心のスタミナ培って

益城柔道クラブでは監督と子どもたちの、独特の温かい関係が築かれています。

松野さんが一人の小学生男子を呼び寄せ、週末の朝練をさぼった理由を聞いたといいます。小さな声で言い訳を繰り返していた男の子でしたが、「本当は寝坊しました…」と正直に告白。「ごまかすと心が苦しくなるが、嘘をつくと余計しんどくなるとぞ」と言いつつ松野さんが頭をなでると、半泣きだった男の子に笑顔が戻り、元気に畳の上に向かいました。

「いつか彼らが社会で揉まれた時、ここでの経験が心のスタミナを培ってくれると信じています」と松野さんは話します。今年2月に県大会の団体戦で優勝。4月には個人戦での優勝を勝ち取り、そして今月、県主催の学童オリンピックでの優勝を目指し、三冠を狙う益城柔道クラブ。この道場からオリンピック選手が生まれる日も、そう遠くないのではないのでしょうか。そんな小さな柔道家たちに心からエールを送りたいと思います。みんな、がんばれーっ!!



左から4番目が松野監督。コーチの皆さんと